

# 工事計画認可申請書

電原設第7号

令和5年6月22日

原子力規制委員会 殿

経済産業大臣

西村康稔 殿

広島県広島市中区小町4番33号

中国電力株式会社

代表取締役社長執行役員 瀧本夏彦

電気事業法第47条第1項の規定により別紙工事計画書のとおり工事の計画の認可を受けたいので申請します。

本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。

島根原子力発電所

第2号機

工事計画認可申請書本文及び添付書類

中国電力株式会社

## 申請範囲

今回の申請範囲は、島根原子力発電所第2号機の次の部分であります。

### (一) 原子力設備

#### 原子炉本体

1. 炉型式，定格熱出力，過剰反応度及び反応度係数（減速材温度係数，燃料棒温度係数，減速材ボイド係数及び出力反応度係数）並びに減速材
2. 炉心
  - (1) 炉心形状（チャンネルボックスの主要寸法及び材料を付記すること。），格子形状，燃料集合体数，炉心有効高さ及び炉心等価直径
  - (2) 燃料の種類，燃料集合体平均濃縮度又は富化度（初装荷及び取替の別に記載すること。），燃料集合体最高燃焼度（初装荷及び取替の別に記載すること。）及び燃料の最大装荷量
  - (3) 燃料材の最高温度
  - (4) 熱的制限値（最小限界出力比及び最大線出力密度）

#### 原子炉冷却系統設備

4. 原子炉冷却材の循環設備
  - 4.1 主蒸気系
    - (8) 主配管
5. 残留熱除去設備
  - 5.1 残留熱除去系
    - (5) 主配管（使用済燃料貯蔵槽の補給及び冷却に用いるものを含む。）
8. 原子炉補機冷却設備
  - 8.2 高圧炉心スプレー補機冷却系（高圧炉心スプレー補機海水系を含む。）
    - (2) ポンプ
      - ・高圧炉心スプレー補機海水ポンプ
9. 原子炉冷却材浄化設備
  - 9.1 原子炉浄化系
    - (5) 主配管

#### 燃料設備

3. 使用済燃料貯蔵設備
  - (1) 使用済燃料貯蔵槽
    - ・燃料プール

(6) 制御棒貯蔵ハンガ

原子炉格納施設

1. 原子炉格納容器

(4) 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部

a. 配管貫通部

(b) ベローズなし貫通部

イ. 直結型

ハ. 計装用

3. 圧力低減設備その他の安全設備

(8) 原子炉格納容器調気設備

(8.1) 窒素ガス制御系

ニ. 主要弁

ホ. 主配管

島根原子力発電所第2号機  
工事計画認可申請書本文及び添付書類

目 録

- I 工事計画書
- II 工事工程表
- III 変更を必要とする理由を記載した書類
- IV 核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の3の9第1項の認可の申請をした年月日を記載した書類
- V 添付書類

# I 工 事 計 画 書

## I 工事計画書

### 一 発電所

#### 1. 発電所の名称及び位置

名 称 島根原子力発電所

位 置 島根県松江市鹿島町片匂

#### 2. 発電所の出力及び周波数

出 力 2,653,000 kW

第1号機 460,000 kW

第2号機 820,000 kW (今回申請分)

第3号機 1,373,000 kW

周 波 数 60 Hz



(一) 原子力設備

原子炉本体

沸騰水型原子力発電設備に係るものについては、次の事項

1. 炉型式，定格熱出力，過剰反応度及び反応度係数（減速材温度係数，燃料棒温度係数，減速材ボイド係数及び出力反応度係数）並びに減速材の名称，種類及び組成

			変更前	変更後
炉	型 式	—	濃縮ウラン，軽水減速， 軽水冷却型（沸騰水型）	変更なし
定 格 熱 出 力		MW	2436	変更なし
過 剰 反 応 度		$\Delta k$	0.14 以下	変更なし
反 応 度 係 数	減 速 材 温 度 係 数	$(\Delta k/k)/^{\circ}\text{C}$	$-0.14 \times 10^{-3} \sim$ $-0.26 \times 10^{-3}$ (高温，ボイドなし)	$-0.14 \times 10^{-3} \sim$ *1 $-0.25 \times 10^{-3}$ (高温，ボイドなし)
	燃 料 棒 温 度 係 数 * 2	$(\Delta k/k)/^{\circ}\text{C}$	$-1.95 \times 10^{-5} \sim$ $-2.25 \times 10^{-5}$ (運転状態— 原子炉定格熱出力時)	$-2.09 \times 10^{-5} \sim$ *1 $-2.25 \times 10^{-5}$ (運転状態— 原子炉定格熱出力時)
	減 速 材 ボ イ ド 係 数 * 3	$(\Delta k/k)/$ %ボイド	$-0.86 \times 10^{-3} \sim$ $-1.05 \times 10^{-3}$ (運転状態— 原子炉定格熱出力時)	変更なし
	出 力 反 応 度 係 数 * 4	$(\Delta k/k)/$ $(\Delta p/p)$	$-0.040$ 以下 (運転状態— 原子炉定格熱出力時)	変更なし
減 速 材	名 称		軽水減速材	変更なし
	種 類	—	軽水	
	組 成	—	導電率 $100 \mu\text{S/m}$ 以下	

注記\*1：電気事業法の規定に基づき，本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料温度係数（ドップラ係数）」と記載

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ボイド係数」と記載

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「出力係数」と記載

2. 炉心に係る次の事項

(1) 炉心形状（チャンネルボックスの主要寸法及び材料を付記すること。）、格子形状、燃料集合体数、炉心有効高さ及び炉心等価直径

		変更前	変更後
炉心形状	—	円柱状 <sup>*1</sup> (8×8型及び9×9型燃料集合体形状、チャンネルボックス付き)	円柱状 <sup>*1, *2</sup> (9×9型燃料集合体形状、チャンネルボックス付き)
格子形状	—	S格子	変更なし
燃料集合体数	—	560	変更なし
炉心有効高さ	mm	<input type="text"/> <sup>*3</sup>	変更なし
炉心等価直径	mm	<input type="text"/> <sup>*3</sup>	変更なし

注記\*1：記載の適正化を行う。なお、既工事計画書には「円柱状（8×8型及び9×9型燃料集合体形状、チャンネルボックス（断面外寸法  mm× mm, 板厚  mm, ジルカロイ-4又はジルカロイ-2製）付き）」を記載

\*2：電気事業法の規定に基づき、本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。

\*3：公称値を示す。

チャンネルボックスの主要寸法及び材料

			変更前	変更後
主要寸法	断面内寸法 <sup>*4</sup>	mm	<input type="text"/> <sup>*5</sup> × <input type="text"/> <sup>*5</sup>	変更なし
	板厚 <sup>*4</sup>	mm	<input type="text"/> <sup>*5</sup>	
材	料 <sup>*4</sup>	—	ジルカロイ-4又はジルカロイ-2	

注記\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*5：公称値を示す。

(2) 燃料の種類、燃料集合体平均濃縮度又は富化度（初装荷及び取替の別に記載すること。）、燃料集合体最高燃焼度（初装荷及び取替の別に記載すること。）及び燃料の最大装荷量

		変更前		変更後
種類 <sup>*1</sup>	—	二酸化ウラン焼結ペレット及びガドリニア混合二酸化ウラン焼結ペレット ジルカロイ-2（ジルコニウム内張）管被覆		変更なし
燃料集合体平均濃縮度	wt%	取替燃料タイプ1 （高燃焼度8×8燃料）	約3.4	廃止 <sup>*2</sup>
		取替燃料タイプ2 （9×9燃料（A型））	約3.7	変更なし
		取替燃料タイプ3 （9×9燃料（B型））	約3.7	変更なし
燃料体最高燃焼度 <sup>*3</sup>	MWd/t	取替燃料タイプ1 （高燃焼度8×8燃料） 燃料集合体 <sup>*4</sup>	50000	廃止 <sup>*2</sup>
		取替燃料タイプ2 （9×9燃料（A型）） 燃料集合体 <sup>*5</sup>	55000	変更なし
		取替燃料タイプ3 （9×9燃料（B型）） 燃料集合体 <sup>*6</sup>	55000	変更なし
核燃料物質の最大装荷量 <sup>*7</sup>	t <sup>*8</sup>	高燃焼度8×8燃料炉心	約96 <sup>*9</sup>	廃止 <sup>*2</sup>
		9×9燃料（A型）炉心	約97 <sup>*9</sup>	変更なし
		9×9燃料（B型）炉心	約96 <sup>*9</sup>	変更なし

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料の種類」と記載

\*2：電気事業法の規定に基づき、本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料集合体最高燃焼度」と記載

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「取替燃料タイプ1（高燃焼度8×8燃料）」と記載

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「取替燃料タイプ2（9×9燃料（A型）」と記載

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「取替燃料タイプ3（9×9燃料（B型）」と記載

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料の最大装荷量」と記載

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「MTU」と記載

\*9：ウラン装荷量を示す。

(3) 燃料材の最高温度

		変更前		変更後
燃料材の 最高温度	℃	高燃焼度 8 × 8 燃料集合体	約 1740 <sup>*1</sup> (原子炉定格熱出力時)	廃止 <sup>*2</sup>
		9 × 9 燃料 (A型) 燃料集合体	約 1650 <sup>*1</sup> (原子炉定格熱出力時)	変更 なし
		9 × 9 燃料 (B型) 燃料集合体	約 1640 <sup>*1</sup> (原子炉定格熱出力時)	変更 なし

注記\*1：ガドリニア混合二酸化ウラン燃料棒の場合

\*2：電気事業法の規定に基づき，本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。

(4) 熱的制限値（最小限界出力比及び最大線出力密度）

			変 更 前		変更後
熱 的 制 限 値	最 小 限 界 出 力 比	—	高燃焼度 8 × 8 燃料	1.25	廃止*
			9 × 9 燃料 (A型)	1.25	変更なし
			9 × 9 燃料 (B型)	1.25	変更なし
	最 大 線 出 力 密 度	kW/m	44.0		変更なし

注記\*：電気事業法の規定に基づき，本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。

原子炉冷却系統設備

沸騰水型原子力発電設備に係るものについては、次の事項

4. 原子炉冷却材の循環設備に係る次の事項

4.1 主蒸気系

(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

変更前						変更後													
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料								
主蒸気系	逃がし安全弁自動減圧機能用アキュムレータ ～ 窒素ガス供給ライン逃がし安全弁自動減圧機能側合流部*2	1.77*3	171	42.7	4.9*1	SUS304TP	主蒸気系	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし							
				57.0	□(6.9*1)	SUS304													
				60.5	□(12.5*1)	SUS304													
	窒素ガス供給ライン逃がし安全弁自動減圧機能側合流部 ～ 逃がし安全弁*2	1.77*3	171	42.7	4.9*1	SUS304TP							変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
				42.7	□(7.85*1)	SUS304													
				40.0	0.45*1×1*4	SUS304													
				42.7	4.9*1	SUS316LTP													
				60.5	3.9*1	SUS304TP													
				60.5	□(12.5*1)	SUS304													
				57.0	□(6.9*1)	SUS304													

変更前						変更後					
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
主蒸気系 逃がし安全弁 逃がし弁機能 用アキュムレ ータ ～ 窒素ガス供給 ライン逃がし 安全弁逃がし 弁機能側合流 部*2	1.77*3	171	42.7	4.9*1	SUS304TP	主蒸気系 逃がし安全弁 逃がし弁機能 用アキュムレ ータ ～ 窒素ガス供給 ライン逃がし 安全弁逃がし 弁機能側合流 部*6	変更なし 2.20*7	変更なし 200*7	変更なし		
			—						43.2*8, *9, *10	6.2*8, *9, *10	SUS304*8, *9
主蒸気系 窒素ガス供給 ライン逃がし 安全弁逃がし 弁機能側合流 部 ～ 逃がし安全弁 *2	1.77*3	171	42.7	4.9*1	SUS316LTP	主蒸気系 窒素ガス供給 ライン逃がし 安全弁逃がし 弁機能側合流 部 ～ 逃がし安全弁 *6	変更なし 2.20*7	変更なし 200*7	変更なし		
			—						43.2*8, *9, *10 /43.2*8, *9, *10 /43.2*8, *9, *10	6.2*8, *9, *10 /6.2*8, *9, *10 /6.2*8, *8, *10	SUS304*8, *9
			42.7	4.9*1	SUS316LTP				変更なし		
			42.7	<input type="text" value="7.85*1"/>	SUS304				42.7	<input type="text" value="7.85*1"/>	SUS304
			40.0	0.45*1×1*4	SUS304				41.5*5	0.3*1, *5×1*4	SUS304
42.7	4.9*1	SUS304TP	変更なし								
—			43.2*8, *9, *10	6.2*8, *9, *10	SUS304*8, *9						

注：記載の適正化を行う。既工事計画書には名称欄文末に「～まで」と記載

注記\*1：公称値を示す。

\*2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*3：S I 単位に換算したものである。

\*4：層数を示す。

\*5：電気事業法の規定に基づき、本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。

\*6：計測制御系統施設のうち制御用空気設備（逃がし安全弁室素ガス供給系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）

\*7：重大事故等時における使用時の値（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）

\*8：核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載

\*9：本設備は既存の設備である。

\*10：差込み継手の差込み部内径及び最小厚さ



変更前						変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ*1 (mm)	材 料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
主蒸気系 (主蒸気隔離弁漏えい制御系)	原子炉格納容器外 側主蒸気隔離弁 ～ サプレッションチ ェンバ内排気管及 び原子炉建物開放 出口ライン合流部 *2	8.62	302	61.1*3	10.9*3	SFVC2B	主蒸気系 (主蒸気隔離弁漏えい制御系)	—*4, *7				
				60.5	8.7	STS42						
				61.1*3 /61.1*3	10.9*3 /10.9*3	SFVC2B						
				/—	/—							
				60.5	8.7	STPT42						
				114.3	8.6	STPT42						
				114.3*5	8.6*5	STPT42*5						
				114.3	11.1	STPT42						
114.3	8.6	SB42										
	0.427	171	60.5	5.5	STPT42						廃止 *6, *7	
原子炉建物開放出 口ライン合流部 ～ 原子炉建物開放*2	0.427	171	60.5	5.5	STPT42						廃止 *6, *7	

変更前						変更後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
主蒸気系 (主蒸気隔離弁漏えい制御系)	原子炉格納容器外 側主蒸気隔離弁以 降主蒸気系母管分 岐点 ～ サプレッションチ ェンバ内排気管及 び原子炉建物開放 出口ライン合流部 *2	8.62	302	67.5	□ (12.2*1)	S25C	主蒸気系 (主蒸気隔離弁漏えい制御系)	0.427	171	60.5	5.5*1	STPT42
				91.0	□ (14.95*1)	S25C						
				60.5	8.7*1	STPT42						
				61.1*3	10.9*3	S25C						
				61.1*3 /61.1*3	10.9*3 /10.9*3	S25C						
				/-	/-							
				114.3	8.6*1	STPT42						
				114.3*5	8.6*1, *5	STPT42*5						
				114.3	11.1*1	STPT42						
				114.3	8.6*1	SB42						
廃止*6, *7												

注記\*1：公称値を示す。

\*2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*3：差込み継手の差込み部内径及び最小厚さ

\*4：主蒸気隔離弁漏えい制御系機能除却に伴い、主たる機能を果たす配管ではなくなることによる。なお、一部の配管については、ドレンラインとして運用する。

\*5：エルボを示す。

\*6：主蒸気隔離弁漏えい制御系機能除却に伴い、当該配管を機能削除することによる。

\*7：電気事業法の規定に基づき、本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。

5. 残留熱除去設備に係る次の事項

5.1 残留熱除去系

(5) 主配管（使用済燃料貯蔵槽の補給及び冷却に用いるものを含む。）の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変更前						変更後											
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*1 (mm)	材料						
残留熱除去系	弁V222-10 ～ 燃料プール冷却入口ライン合流部*2	1.37*3	66	216.3	8.2	STPT410	残留熱除去系	変更なし									
				216.3	8.2	STPT42											
	燃料プール冷却入口ライン合流部 ～ A-燃料プール冷却入口ライン合流部*2	1.37*3	66	216.3	8.2	STPT42						変更なし					
				185	216.3	8.2											STPT42
	燃料プール冷却入口ライン合流部 ～ 残留熱代替除去ポンプ入口ライン分岐部*2	1.37*3	66	216.3	8.2	STPT42						変更なし					
				185	216.3*4	8.2*4											STPT42*4
	残留熱代替除去ポンプ入口ライン分岐部 ～ B-燃料プール冷却入口ライン合流部*2	1.37*3	185	—								残留熱代替除去ポンプ入口ライン分岐部 ～ B-燃料プール冷却入口ライン合流部*5	変更なし		216.3*6	8.2*6	STPT410*6
				216.3	8.2	STPT42									/216.3*6	/8.2*6	
	A-残留熱除去ポンプ ～ A-残留熱除去系熱交換器バイパスライン分岐部*7	3.92*3	185	216.3*4	8.2*4	STPT42*4						A-残留熱除去ポンプ ～ A-残留熱除去系熱交換器バイパスライン分岐部*8	変更なし				
				355.6	15.1	STS42											
				355.6*4	19.0*4	STS42*4											
				355.6	19.0	STS42											
				/355.6	/19.0	STS42											
	A-残留熱除去系熱交換器バイパスライン分岐部 ～ A-残留熱除去系熱交換器*7	3.92*3	185	355.6	15.1	STS42						A-残留熱除去系熱交換器バイパスライン分岐部 ～ A-残留熱除去系熱交換器*8	変更なし				
355.6*4				19.0*4	STS42*4												

変更前						変更後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 　　さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 　　さ*1 (mm)	材 料	
残留熱除去系	B-停止時冷却モード入口ライン合流部 ～ B-残留熱除去ポンプ*9, *10	1.37*3	185	517.6	□*11(14.3*1)	SM41C	B-停止時冷却モード入口ライン合流部 ～ B-残留熱除去ポンプ*8	変 更 な し				
	508.0			□*11(9.5*1)	SM41C							
	508.0*4			9.5*1, *4	STPT42*4							
	B-残留熱除去ポンプ ～ 残留熱代替除去ポンプ注水ライン合流部*12	3.92*3	185	355.6	15.1*1	STS42	B-残留熱除去ポンプ ～ 残留熱代替除去ポンプ注水ライン合流部*8	変 更 な し				
	355.6*4			19.0*1, *4	STS42*4							
	355.6 /355.6 /－			19.0*1 /19.0*1 /－	STS42							
	残留熱代替除去ポンプ注水ライン合流部 ～ B-残留熱除去系熱交換器バイパスライン分岐部*12	3.92*3	185	355.6	19.0*1	STS42	残留熱代替除去ポンプ注水ライン合流部 ～ B-残留熱除去系熱交換器バイパスライン分岐部*13	変 更 な し	355.6*6	19.0*6	変 更 な し	
	/355.6 /－			/19.0*1 /－	STS42	/355.6*6 /216.3*6			/19.0*6 /12.7*6			
	355.6*4			19.0*1, *4	STS42*4	変 更 な し						
	355.6			15.1*1	STS42							
	355.6 /355.6 /355.6	19.0*1 /19.0*1 /19.0*1	STS42	変 更 な し								
	355.6	19.0*1	STS42									
	B-残留熱除去系熱交換器バイパスライン分岐部 ～ B-残留熱除去系熱交換器*12	3.92*3	185	355.6	15.1*1	STS42	B-残留熱除去系熱交換器バイパスライン分岐部 ～ B-残留熱除去系熱交換器*13	変 更 な し				
	355.6*4			19.0*1, *4	STS42*4							
B-残留熱除去系熱交換器 ～ B-残留熱除去系熱交換器バイパスライン合流部*14, *15	3.92*3	185	355.6	15.1*1	STS42	B-残留熱除去系熱交換器 ～ B-残留熱除去系熱交換器バイパスライン合流部*13	変 更 な し					
355.6*4			19.0*1, *4	STS42*4								
B-残留熱除去系熱交換器バイパスライン合流部 ～ B-低圧注水ライン分岐部*14, *15	3.92*3	185	355.6	19.0*1	STS42	B-残留熱除去系熱交換器バイパスライン合流部 ～ B-低圧注水ライン分岐部*13	変 更 な し					
/355.6 /355.6			/19.0*1 /19.0*1	STS42								
355.6			15.1*1	STS42								
355.6*4			19.0*1, *4	STS42*4								
			355.6 /355.6 /－	19.0*1 /19.0*1 /－	STS42							

変更前						変更後								
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ*1 (mm)	材 料			
残留熱除去系	A-残留熱除去系ストレーナ ～ A-停止時冷却モード入口ライン合 流部*16	0.427	104	508.0	15.1*1	残留熱除去系	A-残留熱除去系ストレーナ ～ A-停止時冷却モード入口ライン合 流部*8	0.853*17	178*17	変更なし	変更なし			
		0.427*3		508.0	15.1*1									
				508.0	9.5*1, *4									
		1.37*3	185	508.0	9.5*1, *4									
					508.0	9.5*1, *4								
					517.6	14.3*1								
	A-残留熱除去系熱交換器バイパス ライン分岐部 ～ A-残留熱除去系熱交換器バイパス ライン合流部*18	3.92*3	185	355.6	15.1*1	A-残留熱除去系熱交換器バイパス ライン分岐部 ～ A-残留熱除去系熱交換器バイパス ライン合流部*19		変更なし						
	原子炉压力容器ヘッドスプレイラ イン分岐部 ～ A-原子炉压力容器注入ライン分岐 部*20, *21	3.92*3	185	355.6*4	19.0*1, *4	原子炉压力容器ヘッドスプレイラ イン分岐部 ～ A-原子炉压力容器注入ライン分岐 部*22		変更なし						
				355.6	15.1*1									
A-原子炉压力容器注入ライン分岐 部*20, *21	3.92*3	185	355.6	19.0*1	A-原子炉压力容器注入ライン分岐 部*23	変更なし								
			/355.6	/19.0*1										
			/355.6	/19.0*1										
A-原子炉压力容器注入ライン分岐 部 ～ 低圧原子炉代替注水ポンプ注水ラ イン合流部*20, *21	3.92*3	185	355.6	15.1*1	A-原子炉压力容器注入ライン分岐 部 ～ 低圧原子炉代替注水ポンプ注水ラ イン合流部*24	変更なし								
			355.6*4	19.0*1, *4										
低圧原子炉代替注水ポンプ注水ラ イン合流部*20, *21	3.92*3	185	355.6	19.0*1	低圧原子炉代替注水ポンプ注水ラ イン合流部*25	変更なし		355.6*6	19.0*6	変更 なし				
			/355.6	/19.0*1				/355.6*6	/19.0*6					
			/-	/-				/216.3*6	/12.7*6					

変更前						変更後								
名	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ*1 (mm)	材 料			
残留熱除去系	低圧原子炉代替注水系（可搬型）接 続口（西）注水ライン合流部 ～ 原子炉圧力容器*26, *27	3.92*3	185	355.6	19.0*1	STS42	低圧原子炉代替注水系（可搬型）接 続口（西）注水ライン合流部 ～ 原子炉圧力容器*28	変更なし	355.6*6	19.0*6	変更なし			
				/355.6	/19.0*1									
				/-	/-									
				355.6	15.1*1							STS42		
				355.6	19.0*1							STS42		
				/267.4	/15.1*1									
	8.62*3	302	267.4	18.2*1	STS42	変更なし	変更なし	8.98*17	304*17	変更なし				
			267.4*4	21.4*1, *4	STS42*4									
	C-残留熱除去系ストレーナ ～ 高圧原子炉代替注水ポンプ入口ラ イン分岐部*29	0.427	104	508.0	15.1*1	STS42	C-残留熱除去系ストレーナ ～ 高圧原子炉代替注水ポンプ入口ラ イン分岐部*30	変更なし	0.853*17	178*17	変更なし			
				/508.0	/15.1*1									
				/508.0	/15.1*1									
		0.427*3	100	508.0	9.5*11(9.5*1)	SM41C						変更なし	変更なし	120*17
508.0*4				9.5*1, *4	STPT42*4									
508.0				9.5*11(9.5*1)	SM41C									
1.37*3	100	517.6	14.3*11(14.3*1)	SM41C	変更なし	変更なし	116*17	変更なし						
		517.6	14.3*11(14.3*1)	SM41C										
高圧原子炉代替注水ポンプ入口ラ イン分岐部 ～ C-残留熱除去ポンプ*29	1.37*3	100	517.6	14.3*11(14.3*1)	SM41C	高圧原子炉代替注水ポンプ入口ラ イン分岐部 ～ C-残留熱除去ポンプ*19	変更なし	変更なし	116*17	変更なし				
			508.0	9.5*11(9.5*1)							SM41C			

変更前						変更後							
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
—						残留熱除去系	高圧原子炉代替注水ポンプ入口ライン分岐部*40, *41		1.37*6, *17	120*6, *17	466.8*6	<input type="checkbox"/> (14.3*1)*6	SM41C*6
											457.2*6	<input type="checkbox"/> (9.5*1)*6	SM41C*6

変更前						変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
—						残留熱除去系	A-格納容器代替ス プレイライン合流 部*31, *33	3.92*6, *17	185*6, *17	77.0*6	□ (6.7*1)*6	S25C*6
										69.3*6	□ (8.3*1)*6	S25C*6



変更前						変更後							
名	称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ*1 (mm)	材 料	名	称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ*1 (mm)	材 料
残留熱除去系	B-ドライウェルスピーライン分岐部 ～ B-燃料プール冷却ライン分岐部*34, *35	3.92*3	185	355.6*4	19.0*4	STS42*4	B-ドライウェルスピーライン分岐部 ～ B-燃料プール冷却ライン分岐部*36	変更なし	3.92*3	185	355.6 /355.6 /216.3*2	15.1 19.0 /12.7*2	STS42 STS42
	355.6			15.1	STS42								
	355.6			19.0	STS42								
	B-燃料プール冷却ライン分岐部 ～ B-サプレッションプール冷却ライン分岐部*34, *35	3.92*3	185	355.6	15.1	STS42	B-燃料プール冷却ライン分岐部 ～ B-サプレッションプール冷却ライン分岐部*36	変更なし	3.92*3	185	355.6 /355.6 /267.4	19.0 /15.1	STS42 STS42
	355.6			19.0	STS42								
	B-サプレッションプール冷却ライン分岐部 ～ 残留熱代替除去系原子炉注水ライン分岐部*34, *35	3.92*3	185	355.6	15.1	STS42	B-サプレッションプール冷却ライン分岐部 ～ 残留熱代替除去系原子炉注水ライン分岐部*37	変更なし	3.92*3	185	355.6*6 /355.6*6 /165.2*6	15.1*6 /15.1*6 /11.0*6	STS410*6
—	—			—									

変更前						変更後					
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ*1 (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ*1 (mm)	材 料
残留熱除去系	残留熱代替除去系原 子炉注水ライン分岐 部 ～ 残留熱代替除去系ス プレイライン分岐部 *34, *35	3.92*3	185	355.6	15.1	STS42	残留熱代替除去系原 子炉注水ライン分岐 部 ～ 残留熱代替除去系ス プレイライン分岐部 *37	変更なし	変更なし		
	—			355.6*6 /355.6*6 /165.2*6	15.1*6 /15.1*6 /11.0*6	STS410*6					
	残留熱代替除去系ス プレイライン分岐部 ～ B-格納容器代替スプ レイライン合流部 *34, *35	3.92*3	185	355.6	15.1	STS42	残留熱代替除去系ス プレイライン分岐部 ～ B-格納容器代替スプ レイライン合流部 *38	変更なし			
B-格納容器代替スプ レイライン合流部 ～ B-ドライウェルスプ レイ管 *34, *35	3.92*3	185	355.6	15.1	STS42	B-格納容器代替スプ レイライン合流部 ～ B-ドライウェルスプ レイ管 *39	変更なし				

変更前						変更後							
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
—						残留熱 除去系	B-格納容器代替 スプレイライン 合流部*31, *40		3.92*6, *17	185*6, *17	77.0*6	<input type="checkbox"/> (6.7*1)*6	S25C*6
											69.3*6	<input type="checkbox"/> (8.3*1)*6	S25C*6

変更前						変更後							
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ*1 (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ*1 (mm)	材 料		
残留熱除去系	A-サブプレッショ ンチェンバスプ レイライン分岐 部 ～ サブプレッショ ンチェンバスプレ イ管*41	3.92*3	185	216.3	12.7	STPT42	A-サブプレッショ ンチェンバスプ レイライン分岐 部 ～ サブプレッショ ンチェンバスプレ イ管*38	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	
				/114.3	/8.6								
				114.3*4	8.6*4								STPT42*4
				114.3	8.6								STPT42
			104	/114.3	/8.6	STPT42							
				/-	/-								
				114.3	8.6	STPT42							
				—									
残留熱除去系	B-サブプレッショ ンチェンバスプ レイライン分岐 部 ～ サブプレッショ ンチェンバスプレ イ管*42	3.92*3	185	216.3	12.7	STPT42	B-サブプレッショ ンチェンバスプ レイライン分岐 部 ～ サブプレッショ ンチェンバスプレ イ管*38	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし		
				/114.3	/8.6								
				114.3	8.6							STPT42	
				114.3	8.6							STPT42	
			104	114.3*4	8.6*4	STPT42*4							
				—									
				—									
				—									

注：記載の適正化を行う。既工事計画書には名称欄文末に「～まで」と記載

注記\*1：公称値を示す。

\*2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*3：S I 単位に換算したものである。

\*4：エルボを示す。

\*5：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（残留熱代替除去系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）

\*6：電気事業法の規定に基づき、本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「A-残留熱除去ポンプから A-残留熱除去系熱交換器まで」と記載

\*8：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器スプレイ設備（残留熱除去系（格納容器冷却モード，サブプレッションプール水冷却モード）））と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）

\*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「B-残留熱除去ポンプ入口管」と記載

\*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉再循環系との取合点から A-残留熱除去ポンプまで」の分岐点から B-残留熱除去ポンプまで」と記載

\*11：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 60 年 4 月 27 日付け 59 資庁第 17250 号にて認可された工事計画の添付書類「IV-2-1-4-2-1 管の基本板厚計算書」による。

\*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「B-残留熱除去ポンプから B-残留熱除去系熱交換器まで」と記載

\*13：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器スプレイ設備（残留熱除去系（格納容器冷却モード，サブプレッションプール水冷却モード）），残留熱代替除去系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）

\*14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「B 系原子炉再循環系戻り管」と記載

- \*15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「B-残留熱除去系熱交換器から原子炉再循環系との取合点まで」と記載
- \*16：記載の適正化を行う。既工事計画書には「サプレッションチェンバから「原子炉再循環系との取合点からA-残留熱除去ポンプまで」の合流点まで」と記載
- \*17：重大事故等時における使用時の値（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*18：記載の適正化を行う。既工事計画書には「A-残留熱除去ポンプからA-残留熱除去系熱交換器まで」の分岐点から「A系原子炉再循環系戻り管」の合流点まで」と記載
- \*19：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（残留熱除去系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*20：記載の適正化を行う。既工事計画書には「A系低圧注入管」と記載
- \*21：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉圧力容器頂部スプレイ管」の分岐点から原子炉圧力容器まで」と記載
- \*22：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器スプレイ設備（残留熱除去系（格納容器冷却モード）））と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*23：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器スプレイ設備（残留熱除去系（格納容器冷却モード））、格納容器代替スプレイ系、ペDESTAL代替注水系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*24：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（格納容器代替スプレイ系、ペDESTAL代替注水系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*25：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧原子炉代替注水系、残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（格納容器代替スプレイ系、ペDESTAL代替注水系、残留熱代替除去系、低圧原子炉代替注水系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*26：記載の適正化を行う。既工事計画書には「B系低圧注入管」と記載

- \*27：記載の適正化を行う。既工事計画書には「B系原子炉再循環系戻り管」の分岐点から原子炉圧力容器まで」と記載
- \*28：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧原子炉代替注水系，残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（低圧原子炉代替注水系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*29：記載の適正化を行う。既工事計画書には「サプレッションチェンバからC-残留熱除去ポンプまで」と記載
- \*30：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（高圧原子炉代替注水系，残留熱除去系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（高圧原子炉代替注水系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*31：本設備は既存の設備である。
- \*32：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（高圧原子炉代替注水系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（高圧原子炉代替注水系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*33：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（格納容器代替スプレイ系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*34：記載の適正化を行う。既工事計画書には「B系原子炉格納容器スプレイ管」と記載
- \*35：記載の適正化を行う。既工事計画書には「B系低圧注入管」の分岐点から原子炉格納容器スプレイヘッドまで」と記載
- \*36：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器スプレイ設備（残留熱除去系（格納容器冷却モード，サプレッションプール水冷却モード）），残留熱代替除去系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*37：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器スプレイ設備（残留熱除去系（格納容器冷却モード）），残留熱代替除去系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*38：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器スプレイ設備（残留熱除去系（格納容器冷却モード）））と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）

- \*39：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器スプレイ設備（残留熱除去系（格納容器冷却モード)), 格納容器代替スプレイ系, 残留熱代替除去系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*40：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（格納容器代替スプレイ系, 残留熱代替除去系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*41：記載の適正化を行う。既工事計画書には「A系原子炉再循環系戻り管」の分岐点からサブプレッションチェンバススプレイヘッドまで」と記載
- \*42：記載の適正化を行う。既工事計画書には「B系再循環系戻り管」の分岐点からサブプレッションチェンバススプレイヘッドまで」と記載



## 8. 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

## 8.2 高圧炉心スプレイ補機冷却系（高圧炉心スプレイ補機冷却海水系を含む。）

(2) ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに原動機の種類，出力及び個数

			変更前	変更後											
名	称		高圧炉心スプレイ補機海水ポンプ*1												
ポ ン プ	種	類	ターボ形	変更なし											
	容	量*2	m <sup>3</sup> /h/個		□以上*3(336*4)										
	揚	程*5	m		□以上*3(35*4)										
	最	高	使		用	圧	力	MPa	0.98*6, *7						
	最	高	使		用	温	度	℃	40*6						
	主 要 寸 法	吸	込		内	径*3	mm	216.5*4							
		吐	出	内	径*3	mm	237.2*4								
		コ	ラ	ム	外	径*3	mm	318.5*4							
		コ	ラ	ム	厚	さ*3	mm	□(14.0*4)	□(14.3*4)*8						
	高	さ	mm	6852*4, *9	11652*4, *8										
材	料	ケ	ー	シ	ン	グ	—	□	変更なし						
個	数	—	1												
取 付 箇 所	*10	系	統	名	—	高圧炉心スプレイ補機海水ポンプ*3（高圧炉心スプレイ補機海水系）									
	設	置	床	—	取水槽 EL 1100mm*3										
	溢	水	防	護	上	の	区	画		番	号	—	Y-24CN		
	溢	水	防	護	上	の	配	慮	が	必	要	な	高	さ	—

(つづき)

			変 更 前	変 更 後
原 動 機	種 類	—	誘導電動機	変更なし
	出 力	kW/個	75* <sup>4</sup>	
	個 数	—	1	
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ* <sup>3</sup>	

注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、附帯設備に記載

\*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格容量」と記載

\*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 : 公称値を示す。

\*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格揚程」と記載

\*6 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の主配管「高圧炉心スプレイ補機海水ポンプから高圧炉心スプレイ補機海水ストレーナまで」による。

\*7 : S I 単位に換算したものである。

\*8 : 電気事業法の規定に基づき、本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。

\*9 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 60 年 12 月 25 日付け 60 資庁第 11431 号にて認可された工事計画の添付書類「第 11-4-4 図 高圧炉心スプレイ補機海水ポンプ構造図」による。

\*10 : 核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載

## 9. 原子炉冷却材浄化設備に係る次の事項

## 9.1 原子炉浄化系

(5) 主配管の名称, 最高使用圧力, 最高使用温度, 外径, 厚さ及び材料

変更前						変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ*1 (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ*1 (mm)	材 料	
原子炉浄化系	原子炉浄化補助ポンプバイパスライン分岐部 ～ 原子炉浄化補助ポンプ*2	8.62*3	302	267.4	15.1	SUS316TP	変更なし					
	原子炉圧力容器 ～ 原子炉圧力容器ボトムドレンライン合流部*4	8.62*3	302	60.5*5	8.7*5	STS42*5	原子炉浄化系	変更なし				
				60.5	8.7	STS42						
				89.1 /60.5	7.6 /8.7	SUS316TP						
				89.1	7.6	SUS316TP		変更なし	89.1 /—*6 /89.1*7	7.6 /—*6 /7.6*7	変更なし	
				89.1 /89.1 /—	7.6 /7.6 /—	SUS316TP						
				114.3 /89.1	8.6 /7.6	SUS316TP						
	114.3	8.6	SUS316TP	変更なし								

注：記載の適正化を行う。既工事計画書には名称欄文末に「～まで」と記載

注記\*1：公称値を示す。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉再循環系との取合点から原子炉浄化補助ポンプまで」と記載

\*3：S I 単位に換算したものである。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉圧力容器から「原子炉再循環系との取合点から原子炉浄化補助ポンプまで」の合流点まで」と記載

\*5：エルボを示す。

\*6：当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。

\*7：電気事業法の規定に基づき、本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。

燃料設備

沸騰水型原子力発電設備に係るものにあつては、次の事項

3. 使用済燃料貯蔵設備に係る次の事項

(1) 使用済燃料貯蔵槽の名称、種類、容量、主要寸法、材料及び個数

			変更前	変更後	
名	称		燃料プール	燃料プール*1	
種	類	—	ステンレス鋼内張りプール形 (ラック貯蔵方式)	変更 なし	
容 量	燃 料 集 合 体	体	3518	106*2, *3	
	制 御 棒	本	154*2		
主 要 寸 法	た	て	mm	14000*4, *5, *6	
	横		mm	13500*4, *5, *7	
	深		さ	mm	12070*4, *8, *9, 9000*4, *10
	ライニング材厚さ*11		mm	<input type="checkbox"/> *12(6.0*4), <input type="checkbox"/> *13(12.0*4)	
	壁 厚 さ	*13, *14	東	mm	2246*4
			西	mm	2000*4
			南	mm	2000*4
			北	mm	2000*4
			底	mm	2030*4, *8
	材 料	ライニング材		—	SUS304
壁*13		—	鉄筋コンクリート*15		
個	数		—	1	

注記\*1 : 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備(燃料プール冷却系, 燃料プールスプレイ系)と兼用(核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載)

\*2 : 制御棒・破損燃料貯蔵ラック1個にすべて制御棒(10本)を貯蔵した場合

\*3 : 電気事業法の規定に基づき, 本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。

\*4 : 公称値を示す。

\*5 : 燃料プール内のり

\*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「14.0m」と記載。記載内容は, 設計図書による。

\*7 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「13.5m」と記載。記載内容は, 設計図書による。

\*8 : 使用済燃料貯蔵ラック等据付エリア

\*9 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「12.1m」と記載。記載内容は, 設計図書による。

\*10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「9.0m」と記載。記載内容は, 設計図書による。

る。

\*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内張り材厚さ(最小)」と記載

\*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「**□**」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*13：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*14：ライニング材を含む厚さ

\*15：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和60年12月25日付け60資庁第11431号にて認可された工事計画の添付書類IV-2-5-3「燃料プール（キャスク置場を含む）の耐震性についての計算書」による。

(6) 制御棒貯蔵ハンガの名称, 種類, 容量, 主要寸法, 材料及び個数

			変更前		変更後	
名称		—	制御棒貯蔵ハンガ		変更なし	
種類	—	吊り下げ式				
容量		本/個	96 (6本×16列)*1	48 (3本×16列)*1	64*2 (4本×16列)	32*2 (2本×16列)
主要寸法	たて	mm	□*3, *4	—	変更なし	
	全長	mm	□*3	□*3		
	高さ	mm	□*3, *4			
	サポート外径	mm	□	—		
	サポート厚さ	mm	□*3, *4	—		
材料		—	SUS304, SUS304TP			
個数		—	1*1	1*1		

注記\*1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には個数欄に「16 (6本吊り)」、「16 (3本吊り)」と記載

\*2: 電気事業法の規定に基づき, 本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。

\*3: 公称値を示す。

\*4: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。

原子炉格納施設

沸騰水型原子力発電設備に係るものについては、次の事項

1. 原子炉格納容器に係る次の事項

(4) 原子炉格納容器配管貫通部及び電気配線貫通部の名称又は貫通部番号、種類、個数、最高使用圧力、最高使用温度、構成、主要寸法及び材料

a. 配管貫通部

(b) ベローズなし貫通部

イ. 直結型

変更前										変更後									
種類	個数	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)			材料	貫通部番号	種類	個数	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)			材料	貫通部番号
					外径*1	厚さ*2	長さ*3								外径	厚さ	長さ		
貫通部	6	1.37*4	171	スリーブ			—	STS42	X-98 X-99	変更なし	6	変更なし	200*6	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし		
		0.427*4		スリーブ				STS42	X-107										
				フランジ			—	SGV49											
		平板				—	SGV49	X-214											
		104	スリーブ			—	STS42												
		スリーブ			—	STS42	X-242A X-242B												
貫通部	6	0.427*4	171	スリーブ			—	STS42	X-82A	変更なし	5*8	変更なし	200*6	変更なし	変更なし	変更なし			
		3.92*4		スリーブ			—	STS42	X-82B										
			104	スリーブ			—	STS42	X-200A X-200B										
			8.62*4	302	スリーブ			—	STS42			X-212A							
		8.62*4	302	スリーブ			—	STS42	X-212B										
貫通部	1	0.427*4	104	スリーブ			—	STS42	X-215	変更なし	1	0.853*6	200*6	変更なし	変更なし	変更なし			
貫通部	1	0.86*4	171	スリーブ			—	STS42	X-69	変更なし	1	変更なし	200*6	変更なし	変更なし	変更なし			



注記\*1 : 公称値を示す。

\*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「呼び厚さ」と記載

\*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 : S I 単位に換算したものである。

\*5 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 59 年 9 月 17 日付け 59 資庁第 8283 号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-4-3 原子炉格納容器貫通部の基本板厚計算書」による。

\*6 : 重大事故等時における使用時の値（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）

\*7 : 原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（原子炉隔離時冷却系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）

\*8 : 電気事業法の規定に基づき、本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。

\*9 : 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（残留熱除去系）及び圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器スプレイ設備（残留熱除去系（格納容器冷却モード）））と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）

\*10 : 当該貫通部については、計装用とするため直結型から削除

ハ、計装用

変更前										変更後														
種類	個数	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)			材料	貫通部番号	種類	個数	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	構成	主要寸法(mm)			材料	貫通部番号					
					外径*1	厚さ*2	長さ*3								外径	厚さ	長さ							
貫通部	4	0.427*4	171	スリーブ				STS42	X-144C	変更なし	5*10	変更なし 0.853*7	変更なし 200*7	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし						
				平板			—	SUS304																
				スリーブ				STS42	X-146C															
				平板			—	SUS304																
				スリーブ				STS42	X-147															
				平板			—	SUS304																
				スリーブ				STS42	X-165															
				平板			—	SUS304																
	スリーブ			—	STS42	X-212B*9	変更なし	0.427*10	104*10										スリーブ	変更なし	変更なし		変更なし	変更なし
	—	—	—	—	—			—	0.853*7										200*7	平板*10			—	
貫通部	154	0.427*4, *8	171	スリーブ				SUS304TP	X-20A X-20B X-20C X-20D	変更なし	変更なし 0.853*7, *8	変更なし 200*7	変更なし	変更なし	変更なし	X-20A*11 X-20B*11 X-20C*11 X-20D*11								
貫通部	5	0.427*4	171	スリーブ				STS42	X-23A	変更なし	変更なし 0.853*7	変更なし 200*7	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし							
				フランジ			—	SGV49																

注記\*1 : 公称値を示す。

\*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「呼び厚さ」と記載

\*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 : S I 単位に換算したものである。

- \*5 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 59 年 9 月 17 日付け 59 資庁第 8283 号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-4-3 原子炉格納容器貫通部の基本板厚計算書」による。
- \*6 : 平板含むスリーブ長さ
- \*7 : 重大事故等時における使用時の値（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*8 : 外圧を示す。
- \*9 : 当該貫通部については、直結型であったものを計装用とするものである。
- \*10 : 電気事業法の規定に基づき、本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。
- \*11 : 計測制御系統施設のうち制御材駆動装置の制御棒駆動水圧設備（制御棒駆動水圧系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*12 : フランジ含むスリーブ長さ

3. 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項

(8) 原子炉格納容器調気設備に係る次の事項

(8.1) 窒素ガス制御系

ニ 主要弁の名称，種類，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，駆動方法，個数及び取付箇所

		変 更 前	変 更 後
名	称*1	AV217-4	MV217-4*2, *3
種	類	—	止め弁
最 高 使 用 圧 力	MPa	0.427*4, *5	変更なし 0.853*6
最 高 使 用 温 度	℃	171*4	変更なし 200*6
主 要 寸 法	呼 び 径	(A)	600
	弁 箱 厚 さ	mm	□以上*7
	弁 ふ た 厚 さ	mm	□以上*7
材 料	弁 箱	—	□*3
	弁 ふ た	—	□*3 □*3
駆 動 方 法		—	空気作動
個 数		—	1
取 付 箇 所	系 統 名*9 ( ラ イ ン 名 )	—	AV217-4 (窒素ガス制御系)*7
	設 置 床	—	原子炉建物 EL 23800mm*7
	溢水防護上の区画番号*9	—	—
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ*9	—	—
			R-2F-15N EL 24040mm 以上

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁番号」と記載

\*2：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（格納容器フィルタベント系），圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（格納容器フィルタベント系）及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（格納容器フィルタベント系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）

\*3：電気事業法の規定に基づき，本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，既工事計画書の主

配管「ドライウェルから空調換気系との取合点まで」による。

\*5：S I 単位に換算したものである。

\*6：重大事故等時における使用時の値（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）

\*7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「－」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*9：核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載

		変更前		変更後	
名称 <sup>*1</sup>		AV217-5		MV217-5 <sup>*2, *3</sup>	
種類		—		止め弁	
最高使用圧力		MPa	0.427 <sup>*4, *5</sup>	変更なし 0.853 <sup>*6</sup>	
最高使用温度		℃	171 <sup>*4</sup>	変更なし 200 <sup>*6</sup>	
主要寸法	呼び径	(A)	600	変更なし	
	弁箱厚さ	mm	□以上 <sup>*7</sup>	□以上 <sup>*3</sup>	
	弁ふた厚さ	mm	□以上 <sup>*7</sup>	□以上 <sup>*3</sup>	
材料	弁箱	—	□	□ <sup>*3</sup>	
	弁ふた	—	□ <sup>*8</sup>	□ <sup>*3</sup> □ <sup>*3</sup>	
駆動方法		—	空気作動	電気作動 <sup>*3</sup>	
個数		—	1	変更なし	
取付箇所	系統名 <sup>*9</sup> (ライン名)	—	AV217-5 (窒素ガス制御系) <sup>*7</sup>	MV217-5 (窒素ガス制御系)	
	設置床	—	原子炉建物 EL 8800mm <sup>*7</sup>	変更なし	
	溢水防護上の区画番号 <sup>*9</sup>	—	—	R-B2F-31N	
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ <sup>*9</sup>	—		EL 8700mm 以上	

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁番号」と記載

\*2：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（格納容器フィルタベント系）、圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（格納容器フィルタベント系）及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（格納容器フィルタベント系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）

\*3：電気事業法の規定に基づき、本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の主配管「サプレッションチェンバから「ドライウェルから空調換気系との取合点まで」の合流点まで」による。

\*5：S I 単位に換算したものである。

\*6：重大事故等時における使用時の値（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）

\*7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

- \*8 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「一」と記載。記載内容は、設計図書による。
- \*9 : 核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載

			変更前	変更後
名称 <sup>*1</sup>			AV217-18	MV217-18 <sup>*2, *3</sup>
種類	類	—	止め弁	変更なし
最高使用圧力	MPa		0.427 <sup>*4, *5</sup>	変更なし 0.853 <sup>*6</sup>
最高使用温度	℃		171 <sup>*4</sup>	変更なし 200 <sup>*6</sup>
主要寸法	呼び径	(A)	400	変更なし
	弁箱厚さ	mm	□以上 <sup>*7</sup>	□
	弁ふた厚さ	mm	□以上 <sup>*7</sup>	□以上 <sup>*3</sup>
材料	弁箱	—	□	□ <sup>*3</sup>
	弁ふた	—	□ <sup>*8</sup>	□ <sup>*3</sup> □ <sup>*3</sup>
駆動方法		—	空気作動	電気作動 <sup>*3</sup>
個数		—	1	変更なし
取付箇所	系統名 <sup>*9</sup> (ライン名)	—	AV217-18 (窒素ガス制御系) <sup>*7</sup>	MV217-18 (窒素ガス制御系)
	設置床	—	原子炉建物 EL 34800mm <sup>*7</sup>	変更なし
	溢水防護上の区画番号 <sup>*9</sup>	—	—	R-3F-04-1N, R-3F-04-2N, R-3F-07N, R-3F-16-1N
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ <sup>*9</sup>	—	—	EL 35380mm 以上

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁番号」と記載

\*2：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（格納容器フィルタベント系）、圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（格納容器フィルタベント系）及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（格納容器フィルタベント系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）

\*3：電気事業法の規定に基づき、本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の主配管「ドライウェルから空調換気系との取合点まで」の分岐点から非常用ガス処理系との取合点まで」による。

\*5：S I 単位に換算したものである。

\*6：重大事故等時における使用時の値（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）



- \*7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。
- \*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「－」と記載。記載内容は，設計図書による。
- \*9：核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載

ホ 主配管の名称, 最高使用圧力, 最高使用温度, 外径, 厚さ及び材料

変更前						変更後						
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
窒素ガス制御系	弁AV217-3入口ライン分岐部 ～ 弁AV217-2*2, *3, *4	0.427*5	171	619.2	□*6(14.3*1)	SM41C	変更なし	0.427*5	171	609.6	□*6(9.5*1)	SM41C
				609.6	□*6(9.5*1)	SM41C						
				609.6*6, *7	9.5*1, *6, *7	STPT42*6, *7						
	弁AV217-2 ～ 弁AV217-8A出口ライン合流部*2, *3	0.427*5	171	609.6	□*6(9.5*1)	SM41C		変更なし				
	弁AV217-8A出口ライン合流部 ～ ドライウエル*2, *3	0.427*5	171	77.0*8	□*8(7.95*1, *8)	S25C*8		変更なし				
				69.3*8	□*8(8.3*1, *8)	S25C*8						
				609.6	□*6(9.5*1)	SM41C						
				609.6*6 /508.0*6	□*6(9.5*1, *6) /□*6(9.5*1, *6)	SM41C*6						
	弁V17-201 ～ 第1号機不活性ガス発生装置(置換用)出口ライン合流部*9	0.98*5	66	355.6	11.1*1	STPT42		—*11, *12				
				382.5*8	1.5*1, *8×1*8, *10	SUS316*8						

変更前						変更後										
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ*1 (mm)	材 料					
窒素ガス制御系	弁AV217-8B入口ライン分岐部 ～ 弁AV217-8B出口ライン合流部*13	0.427*5	171	60.5	5.5*1	STPT42	窒素ガス制御系	変更なし								
			104	60.5	5.5*1	STPT42		ドライウエル ～ サプレッションチェンバ出口ラ イン合流部*15	0.427*5	171	609.6*6	□*6(9.5*1, *6)	SM41C*6			
			61.1*8, *14	6.9*8, *14	S25C*8	609.6					□*6(9.5*1)	SM41C				
	ドライウエル ～ サプレッションチェンバ出口ラ イン合流部*15	0.427*5	171	609.6	□*6(9.5*1)	SM41C		サプレッションチェンバ出口ラ イン合流部*16	0.853*17	200*17	変更なし					
				609.6*6, *7	9.5*1, *6, *7	STPT42*6, *7					サプレッションチェンバ出口ラ イン合流部 ～ 原子炉棟空調換気系分岐部*16	0.427*5	171	619.2	□*6(14.3*1)	SM41C
				619.2	□*6(14.3*1)	SM41C								609.6	□*6(9.5*1)	SM41C
	サプレッションチェンバ出口ラ イン合流部 ～ 原子炉棟空調換気系分岐部*15	0.427*5	171	619.2	□*6(14.3*1)	SM41C		原子炉棟空調換気系分岐部*16	0.853*17	200*17	変更なし					
				609.6	□*6(9.5*1)	SM41C					原子炉棟空調換気系分岐部 ～ 弁AV217-19*15	0.427*5	171	619.2	□*6(14.3*1)	SM41C
	原子炉棟空調換気系分岐部 ～ 弁AV217-19*15	0.427*5	171	609.6	□*6(9.5*1)	SM41C		サプレッションチェンバ ～ サプレッションチェンバ出口ラ イン合流部*18	0.427*5	104				609.6*6	□*6(9.5*1, *6)	SM41C*6
				609.6	□*6(9.5*1)	SM41C					609.6*6, *7	9.5*1, *6, *7	STPT42*6, *7			
	サプレッションチェンバ ～ サプレッションチェンバ出口ラ イン合流部*18	0.427*5	171	609.6	□*6(9.5*1)	SM41C		サプレッションチェンバ出口ラ イン合流部*16	0.853*17	200*17	変更なし					
				619.2	□*6(14.3*1)	SM41C					原子炉棟空調換気系分岐部 ～ 弁MV217-23入口ライン分岐部*19	0.427*5	171	609.6	□*6(9.5*1)	SM41C
				609.6*6, *7	9.5*1, *6, *7	STPT42*6, *7								609.6*6	□*6(9.5*1, *6)	SM41C*6
	原子炉棟空調換気系分岐部 ～ 弁MV217-23入口ライン分岐部*19	0.427*5	171	619.2	□*6(14.3*1)	SM41C		弁 MV217-23 入口ライン分岐部*16	0.853*17	200*17	変更なし					
				609.6	□*6(9.5*1)	SM41C					弁 MV217-23 入口ライン分岐部 ～ 弁 AV217-18*19	0.427*5	171	609.6*6	□*6(9.5*1, *6)	SM41C*6
	弁MV217-23入口ライン分岐部 ～ 弁AV217-18*19	0.427*5	171	609.6*6	□*6(9.5*1, *6)	SM41C*6		弁 MV217-23 入口ライン分岐部 ～ 弁 MV217-18*16	0.853*17	200*17				406.4*12	12.7*12	STPT410*12
				—	—	—					406.4*12	12.7*12	406.4*12	12.7*12		

注：記載の適正化を行う。既工事計画書には名称欄文末に「～まで」と記載

注記\*1：公称値を示す。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素ガス置換配管（ドライウエル）」と記載

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素ガス制御系サージタンクからドライウエルまで」と記載

\*4：本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

\*5：S I 単位に換算したものである。

- \*6 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 60 年 12 月 25 日付け 60 資庁第 11431 号にて認可された工事計画の添付書類「IV-3-5-2-2-1 管の基本板厚計算書」による。
- \*7 : エルボを示す。
- \*8 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*9 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「第 1 号機不活性ガス発生装置（置換用）との取合点から「窒素ガス置換配管（ドライウエル）」の合流点まで」と記載
- \*10 : 層数を示す。
- \*11 : 当該配管については、1 号機不活性ガス系の 2 号機との共用取止めに伴い機能廃止とする。
- \*12 : 電気事業法の規定に基づき、本工事計画認可申請書において手続きを実施するもの。
- \*13 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「窒素ガス補給配管」の分岐点から「窒素ガス置換配管（サブプレッションチェンバ）」の合流点まで」と記載
- \*14 : 差込み継手の差込み部内径及び最小厚さ
- \*15 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ドライウエルから空調換気系との取合点まで」と記載
- \*16 : 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（格納容器フィルタベント系）、圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（格納容器フィルタベント系）及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（格納容器フィルタベント系）と兼用（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*17 : 重大事故等時における使用時の値（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の規定による工事計画の記載）
- \*18 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「サブプレッションチェンバから「ドライウエルから空調換気系との取合点まで」の合流点まで」と記載
- \*19 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「「ドライウエルから空調換気系との取合点まで」の分岐点から非常用ガス処理系との取合点まで」と記載

## II 工事工程表

II 工事工程表

項目	年 月		2023 年						2024 年						
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
原子炉本体	■														
		■*													■*
		◇*									◇*				
		□*											△*		△*
原子炉冷却系統設備	■														
		■*													■*
		◇*									◇*				
		□*											△*		△*
燃料設備	■														
		■*													■*
		◇*									◇*				
		□*											△*		△*
原子炉格納施設	■														
		■*													■*
		◇*									◇*				
		□*											△*		△*

■ : 現地工事期間

■ : 構造, 強度又は漏えいに係る試験をすることができる状態になった時

◇ : 原子炉に燃料を装入することができる状態になった時

△ : 原子炉の臨界反応操作を開始することができる状態になった時

□ : 工事の計画に係る全ての工事が完了した時

注記\* : 検査時期は, 工事の計画の進捗により変更となる可能性がある。

### III 変更を必要とする理由を記載した書類

### III 変更を必要とする理由を記載した書類

平成 24 年 6 月の核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の改正並びに関連規則等の改正を踏まえた工事に伴い、以下の変更を行う。

- (1) 原子炉本体のうち、燃料について、高燃焼度 8×8 燃料を用いないことから廃止する。
- (2) 原子炉冷却系統設備のうち、原子炉冷却材循環設備の主蒸気系主配管について、信頼性向上の観点から取替を行う。
- (3) 原子炉冷却系統設備のうち、原子炉冷却材循環設備の主蒸気系主配管について、主蒸気隔離弁漏えい制御系を用いないことから当該系統の撤去を行う。
- (4) 原子炉冷却系統設備のうち、残留熱除去設備の残留熱除去系主配管について、重大事故等対処設備としての信頼性向上の観点から改造（接続継手追加）を行う。
- (5) 原子炉冷却系統設備のうち、原子炉補機冷却設備の高圧炉心スプレイ補機海水ポンプについて、信頼性向上の観点から改造を行う。
- (6) 原子炉冷却系統設備のうち、原子炉冷却材浄化設備の原子炉浄化系主配管について、信頼性向上の観点から改造を行う。
- (7) 燃料設備のうち、使用済燃料貯蔵設備の使用済燃料プールについて、制御棒貯蔵ハンガの改造に伴い、改造（制御棒の貯蔵容量変更）を行う。
- (8) 原子炉格納施設のうち、原子炉格納容器の配管貫通部について、重大事故等対処設備としての信頼性向上の観点から改造を行う。
- (9) 原子炉格納施設のうち、圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器調気系主要弁について、重大事故等対処設備としての信頼性向上の観点から改造（駆動方法変更）を行う。
- (10) 原子炉格納施設のうち、圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器調気系主配管について、重大事故等対処設備としての信頼性向上の観点から改造（接続継手追加）を行う。



IV 核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第  
43 条の 3 の 9 第 1 項の認可の申請をした年月日を記載した  
書類

IV 核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の3の9第1項の認可の申請をした年月日を記載した書類

当該事業用電気工作物に係る核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の3の9第1項の認可の申請をした年月日は以下のとおり。

島根原子力発電所第2号機  
設計及び工事計画認可申請書番号  
電原設第69号（平成25年12月25日）

以下、設計及び工事計画認可申請書の一部補正を行った書類番号

電原設第17号（令和3年10月1日）  
電原設第28号（令和3年12月22日）  
電原設第43号（令和4年3月28日）  
電原設第3号（令和4年5月25日）  
電原設第20号（令和4年7月28日）  
電原設第31号（令和4年10月31日）  
電原設第38号（令和4年12月23日）  
電原設第6号（令和5年6月22日）

## V 添 付 書 類

## V 添付書類

「原子力発電工作物の保安に関する省令第15条第1号の規定に基づく指示について」（平成25年7月8日原規技発第1307081号・20130628商第22号）により，原子力規制委員会及び経済産業大臣から添付することを要しない旨指示のあった以下の添付書類については，添付を省略する。

### 省略した添付書類

- ・ 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書
- ・ クラス1機器及び炉心支持構造物の応力腐食割れ対策に関する説明書
- ・ 安全設備が使用される条件の下における健全性に関する説明書
- ・ 原子炉冷却系統設備に係る機器の配置を明示した図面及び系統図
- ・ 燃料設備に係る機器の配置を明示した図面及び系統図
- ・ 原子炉格納施設に係る機器の配置を明示した図面及び系統図
- ・ 耐震性に関する説明書
- ・ 強度に関する説明書
- ・ 構造図
- ・ 原子炉格納施設の設計条件に関する説明書
- ・ 品質保証に関する説明書